

案内絵ハガキから見た貴重書展示会のイメージ（15）

「日墨交流400周年記念稀観書展示会 —黒潮が結んだメキシコとの絆—

河野 佑吏

すっかり寒くなってきました。みなさん、体調には充分お気を付けください。ところで、検索カウンターの横の壁に、額がかかっているのをご存じですか？この額には、本学図書館がこれまで開催してきた稀観書展示会の案内絵ハガキが飾られています。どれも綺麗なもののばかりなので、ぜひ一度ご覧になってみてください。

今回は、その中にある「日墨交流400周年記念稀観書展示会—黒潮が結んだメキシコとの絆—」という展示会についてご紹介します。この展示会は2009年、その名の通り日本とメキシコとの交流400周年を記念して催されました。この二ヶ国の関係は、一隻のガレオン船をきっかけに始まります。1609年に房総半島の岩和田の北、田尻の沖、現在の千葉県御宿町でガレオン船が難破します。村人たちは、この船に乗っていた乗組員を全員救助しました。この出来事が、日本とメキシコを結びつける原点となります。人助けによって国と国が結ばれるというのは、とても素敵なことですね。

この展示会の中で私が特に興味を惹かれたのは、アマティによって書かれた『伊達政宗遣欧使節記』です。日本の歴史に疎い私でも知っている、伊達政宗という文字に目を惹かれました。この本は、タイトルにもあるように、1613年に仙台藩主の伊達政宗によって派遣された遣欧使節について書かれたものです。メキシコ、キューバ、スペインを経て、ローマへと入った支倉常



長率いる使節団は、当時の教皇パウルス5世に政宗からの書状を手渡しました。しかし、政宗が一地方の領主にすぎないことから、返信を得ることはできなかったそうです。日本では一目置かれる存在だった政宗も、世界規模でみれば、一地方の領主にしかすぎないのかと、少し残念な気持ちになりました。

ここでは、少ししか紹介することができませんでしたが、本学図書館のホームページから過去の展示会の詳細や、展示されていた本についても見ることができます。興味がある方は、一度覗いてみてください。

この ゆうり（スペイン語学科3年次生）